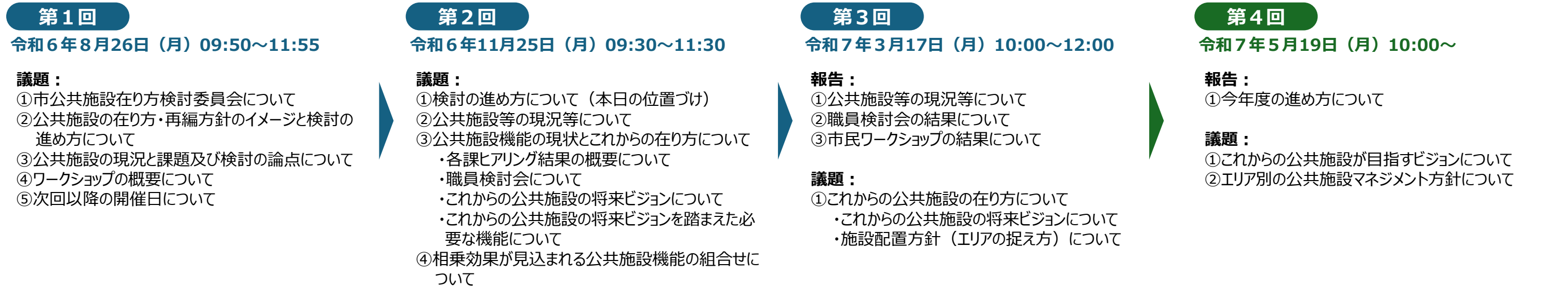


1. これまでの実施概要



2. 第3回までの検討経緯（公共施設のこれからの在り方に対する主な意見）

第1回～第2回	第3回：これからの公共施設の在り方について
公共施設のこれからの在り方 【共通】 - 将来無人管理も見据え、エネルギー等の設備を遠隔で自動管理するような仕組みや、DXによる施設管理の全体最適化について検討できるとよい - 自由に使える施設であっても、想定される使われ方を示すなどある程度の規律は必要 - 自由に使えるだけでなく、転用できる視点も必要 - 多様な人が使う施設であることも認識しておくべき - 複合化によって創出される余剰の公有地に対しても資産として捉えるべき - 機能・サービスに応じて受益者負担とすることもあってよいのではない - 新庁舎及び新福祉会館建設事業におけるコンセプトやその検討経緯を参考にすべき - 東小金井の居間（リビング）の計画も参考にすべき 【学校施設】 - 地域が利用できる諸室や学童保育所の諸室の確保等を検討されており、今後は、学校の建替時に様々な施設との複合化が見込まれるのではない - 老朽化状況は学校によって異なるので、優先度をつけて、早急に対応するべき施設は対応していく必要がある - 学校施設の複合化などを検討する際には、子どもの検討に参加できるプロセスをとってほしい - R10年度まで児童・生徒数の増加が見込まれている中で、別施設との複合化は考えにくい。夜間の教室利用や音楽室等の開放、プールの共同利用などの方法がとれるとよい。 【子育て支援施設】 - 教育相談、不登校の学びの場はとても重要。フリースクールなども含めて行政が支えなければいけないことについては議論を深めていくべき 【図書館】 - 駅前などでの図書の受取ポストの設置 - 受取ポストなどでもおすすめ本の紹介・感想返信機能の導入	これからの公共施設が目指すビジョン 【共通】 - ハコの作り方と使われ方を区分して整理した方がよい。加えて運営のあり方も示す必要があるだろう - 宮地楽器ホール周辺が良いモデル。あのような空間が新庁舎や開発の進むエリアでも整備されるとよい 【交流・つながりの場】 - つながらない自由を尊重することが重要。市として交流の場を提供する必要があるか。交流を促すのであれば、ソフト面の仕掛けやつながりのあることでのメリットを示すことが必要 - 人とのつながりを促進するにあたってはハコだけでなくコーディネートをする人も重要。学校施設の近くに交流の拠点を置くのであれば、コミュニティ・スクールで活動されている方などの意見も取り入れてほしい - 学校は学校であることが大前提であり、学校教育の課題解決に資する機能・サービスを考え、いくべきで交流・つながりの場にするのは難しいのではない 【目的によらない自由に利用できる場】 - フレキシブルな構造、諸室構成とあるがフレキシブルの考え方について議論するべき。各施設のコアとなる機能は担保されることが前提であり、その上で他の利用が許容されるのがよい - 学校や図書館は前提となる機能の維持が重要。公民館と集会所など同じような利用がされている施設は一体的に運用されるべき 【短期的な対応の視点】 - 予約制度、施設運用などは短期的に対応できることは対応を進めていってほしい - 整備する時だけでなく、用途廃止後解体前に活用することなども考えられるとよい 【公民の役割分担】 - 総量抑制の視点から、公共として担うべき機能・サービスの濃淡をつけることも検討してはどうか - 防災機能は維持ではなく強化・拡充が必要 【官民連携の推進】 - 脱炭素化等の社会動向を踏まえ、市の計画通りに事業が進行できない可能性があることを考慮すべき - 民間活力の活用に関して、サウンディング調査等により事業が成立するものか検討していくことが必要 - 積極的な民間施設の有効活用の視点もあるとよい - 官民連携においては地場の事業者が参加しやすいものとよい
	■施設配置方針（エリアの捉え方） - 中学校を1つのエリアとして考えるのは賛成であるが、中学校をコア施設とするのは疑問 - 中学校区ごとに施設を集約することで公共マネジメント上の財政健全化が達成できるか、その上でなおも施設総量の縮小が必要か示してほしい - コア施設とはどのような役割を担うのか、具体的なものがないと議論が難しい - コア施設は5つ必要か。例えば緑中学校、東中学校エリアの拠点は駅周辺の拠点施設とあわせて集約・複合化してよいのではない 2つの駅と新庁舎を拠点とする考え方と中学校区程度を1つのエリアとして捉えコミュニティの拠点施設を配置していく2つの考え方を示すことは重要。また、拠点の名称は工夫できるとよい